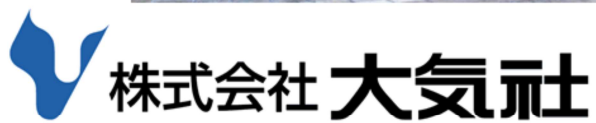




この写真は大気社の海外拠点があるラオスの世界遺産、
ルアンパバーンにある寺院、ワット・シェントーンです。



2020年3月期(2019年度)

決算説明資料

2020年5月22日

Copyright 2020 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

業績ハイライト

1. 2020年3月期の市場環境と業績
2. 2021年3月期業績の見通しと対応

平素より大気社グループをお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当頁からは、2020年3月期の市場環境と業績、そして2021年3月期業績の見通しについてご説明申し上げます。

1 2020年3月期の市場環境と業績

市場環境

国内市場

米中貿易摩擦などの影響により、電子部品メーカーなどで調整局面が見られましたが、首都圏におけるオフィスビルの建設投資や製薬メーカーによる設備投資などもあり、需要は堅調に推移。

海外市場

フィリピンにおいては電子部品メーカー、北米においては自動車メーカーによる需要が好調に推移したものの、景気の減速感が強まるなか、自動車メーカーの中には設備投資を先送りする動きが見受けられました。

まず、当社グループにおける市場環境につきましては、国内市場は米中貿易摩擦などの影響により、電子部品メーカーなどで調整局面が見られましたが、首都圏におけるオフィスビルの建設投資や製薬メーカーによる設備投資などもあり、需要は堅調に推移しました。

一方、海外市場は、フィリピンにおいては電子部品メーカー、北米においては自動車メーカーによる需要が好調に推移したものの、景気の減速感が強まるなか、自動車メーカーの中には設備投資を先送りする動きが見受けられました。

1 2020年3月期の市場環境と業績

連結業績

単位：億円

	期初予想	2020.3 実績	差異
受注工事高	2,398	2,269	-128
完成工事高	2,390	2,253	-136
経常利益	153	159	6
(同率)	6.4%	7.1%	0.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	97	91	-5
(同率)	4.1%	4.1%	-0.0%

- 受注工事高は、受注工事高は塗装システム事業の海外における受注計画案件の期ズレなどが影響し、全社では期初予想を下振れ。
- 完成工事高は、塗装システム事業の受注が想定を下回った影響などにより、期初予想を下振れ。
- 収益性が期初の想定より改善したことにより、経常利益は期初予想を上振れ。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、特別利益として投資有価証券売却益を計上したものの、特別損失としてGeico社におけるのれんの償却額を計上したことなどにより特別損益がマイナスとなる影響を受けた。さらに、海外拠点における繰延税金資産の取り崩しに伴い法人税等調整額が増加したことなどにより、期初予想に対し下振れ。
- 配当は期初予想通り、1株当たり100円での実施。(配当性向37.3%)

4

Copyright 2020 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

このような状況のもと、受注工事高は塗装システム事業の海外における受注計画案件の期ズレなどが影響し、全社では期初予想を下回る結果となりました。

また、完成工事高についても、塗装システム事業の受注が想定を下回った影響などにより、期初予想を下回りました。

一方、収益性が期初の想定より改善したことにより、経常利益については、期初予想を上回る結果となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、特別利益として投資有価証券売却益を計上したものの、特別損失としてGeico社におけるのれんの償却額を計上したことなどから、特別損益がマイナスとなる影響を受けました。さらに、海外拠点における繰延税金資産の取り崩しに伴い法人税等調整額が増加したことなどにより、期初予想を下回りました。

但し、配当につきましては期初予想通り、1株当たり100円での実施としました。その結果、配当性向につきましては37.3%となりました。

2 2021年3月期業績の見通し

業績予想

新型コロナウイルスが業績に与える影響度やその期間が見通せず、業績予想の合理的な見積りが困難であるため、2021年3月期の業績予想を現段階では未定とする。

なお、可能となった時点で速やかに開示する予定。

続いて、2021年3月期業績の見通しにつきましてご説明いたします。

今後の世界経済および当社グループにおける市場環境の見通しにつきましては、新型コロナウイルス感染症の収束の時期や内外経済に与える影響が見通せないため、先行きは非常に不透明感の強い状況にあります。

このような状況のもと、製品需要の縮小などによる顧客の設備投資計画への影響や、感染拡大防止と社員ならびに関係者の安全確保に向けた取組みによる施工活動への影響などが業績に与える影響度やその期間が見通せず、業績予想の合理的な見積りが困難であるため、2021年3月期の業績予想を現段階では未定といたします。

なお、業績予想につきましては、可能となった時点で速やかに開示いたします。



1. 2020年3月期（2019年度）決算説明

- | | |
|-------------------|--------------------|
| ① 2020年3月期決算ハイライト | ④ 主な受注工事・完成工事・繰越工事 |
| ② 環境システム事業の業績 | ⑤ 株主還元 |
| ③ 塗装システム事業の業績 | |

2. 中期経営計画（2019年度～21年度）の各戦略における取り組み

1. 業績数値等は原則、連結ベースです。個別ベースの場合のみ、各ページのタイトルに（個別）と記載しています。
2. 業績数値等は原則、外部顧客に対する取引金額となっており、セグメント別の営業利益・経常利益についてのみ、内部取引高を含む数値となっております。
3. 業績予想数値は、発表日現在において、入手可能な情報に基づき推計した見込みです。
経済動向、業界における激しい競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度の改正、その他多様なリスクや不確実性を
含んでいます。そのため、実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性がありますので、ご承知おきください。

1. 2020年3月期（2019年度） 決算説明

当頁からは、2020年3月期の決算についてご説明いたします。

1 2020年3月期決算ハイライト

1-①. 事業別受注工事高（前期比）

	2019.3	2020.3	増減
受注工事高	2,418	2,269	-149
（うち国内）	（1,298）	（1,245）	（-52）
（うち海外）	（1,120）	（1,023）	（-97）
環境システム事業	1,585	1,605	19
ビル空調	467	477	10
産業空調	1,118	1,127	9
（うち国内）	（694）	（632）	（-62）
（うち海外）	（423）	（495）	（71）
塗装システム事業	833	663	-169
（うち国内）	（136）	（136）	（-0）
（うち海外）	（696）	（527）	（-168）

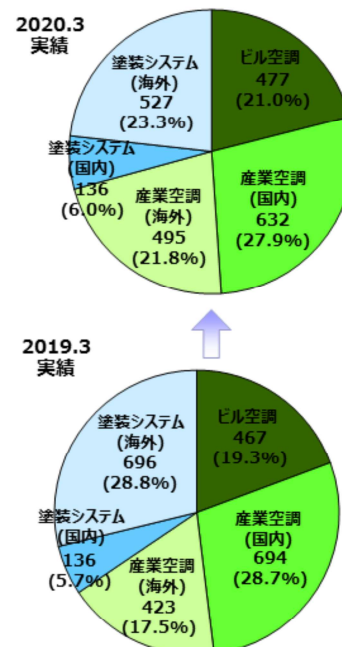
（環境システム事業）

・産業空調の国内は前期に大型案件の受注があったことにより反動減。

（塗装システム事業）

・前期に欧州で大型案件の受注があったことによる反動減

事業別構成



当頁は事業別の受注工事高を前期比でまとめています。

全社としましては149億円減少し、2,269億円となりました。

そのうち、環境システム事業は、国内では産業空調分野は前期に大型案件の受注があったことによる反動減となったもののビル空調分野は増加し、また海外ではフィリピンやタイなどで増加したことから、全体としては前期を19億円上回り、1,605億円となりました。

また、塗装システム事業は、北米などで増加したものの、前期に欧州で大型案件の受注があったことによる反動減などにより、前期を169億円下回り、663億円となりました。

1 2020年3月期決算ハイライト

1-②. 事業別受注工事高（予想比）

単位：億円

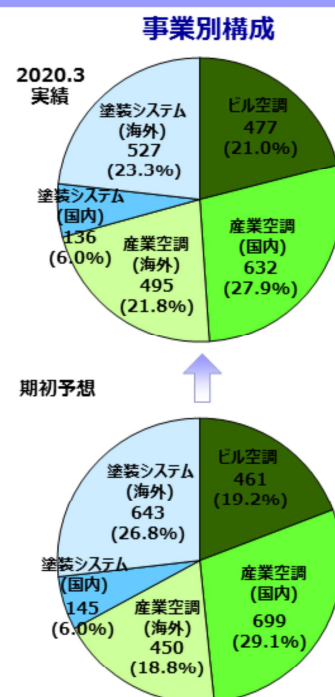
	期初予想	2020.3 実績	差異
受注工事高	2,398	2,269	-128
（うち国内）	（1,305）	（1,245）	（-59）
（うち海外）	（1,093）	（1,023）	（-69）
環境システム事業	1,610	1,605	-4
ビル空調	461	477	16
産業空調	1,149	1,127	-21
（うち国内）	（699）	（632）	（-66）
（うち海外）	（450）	（495）	（45）
塗装システム事業	788	663	-124
（うち国内）	（145）	（136）	（-8）
（うち海外）	（643）	（527）	（-115）

（環境システム事業）

・国内の産業空調分野が予想を下回り、全体としては4億円の下振れ。

（塗装システム事業）

・受注計画案件の期ズレなどが影響し下振れ。



当頁は、同じく受注工事高について、期初予想比で示しております。

全社では、期初予想を128億円下回りました。

そのうち、環境システム事業は海外の産業空調分野とビル空調分野が想定を上回ったものの、国内の産業空調分野が下回り、全体としては期初予想を4億円下回りました。

また、塗装システム事業は、受注計画案件の期ズレなどが影響し、124億円下回る結果となりました。

1 2020年3月期決算ハイライト

2-①. 事業別完成工事高（前期比）

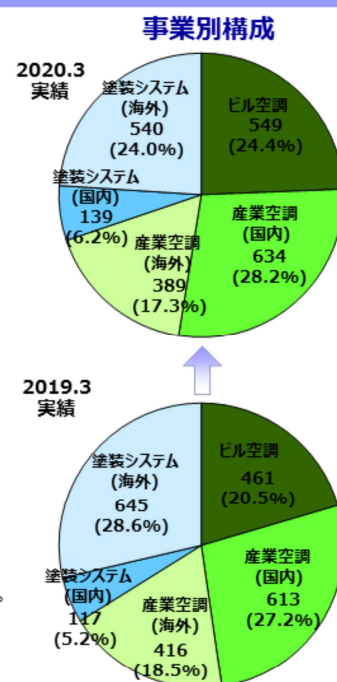
	2019.3	2020.3	増減
完成工事高	2,254	2,253	-0
（うち国内）	（1,192）	（1,323）	（130）
（うち海外）	（1,061）	（930）	（-131）
環境システム事業	1,491	1,573	82
ビル空調	461	549	88
産業空調	1,030	1,024	-5
（うち国内）	（613）	（634）	（20）
（うち海外）	（416）	（389）	（-26）
塗装システム事業	762	680	-82
（うち国内）	（117）	（139）	（22）
（うち海外）	（645）	（540）	（-104）

（環境システム事業）

・ビル空調分野で首都圏の再開発案件の出来高が伸び大きく増加したことが寄与し、全体では増加。

（塗装システム事業）

・北米、ロシアなどで減少し、全体では減少。



当頁は、事業別完成工事高を前期比で示しております。

全社ではほぼ横ばいの2,253億円となりました。

そのうち、環境システム事業は海外ではタイなどで減少したものの、国内においてはビル空調分野で首都圏の再開発案件の出来高が伸び大きく増加したことに加え、産業空調分野も増加したことから、全体としては82億円増加し、1,573億円となりました。

一方、塗装システム事業は国内などで増加したものの、北米、ロシアなどで減少し、全体としては82億円減少し、680億円となりました。

1 2020年3月期決算ハイライト

2-②. 事業別完成工事高（予想比）

単位：億円

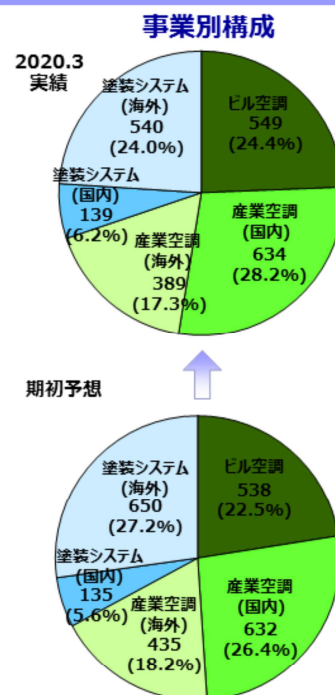
	期初予想	2020.3 実績	差異
完成工事高	2,390	2,253	-136
（うち国内）	（1,305）	（1,323）	（18）
（うち海外）	（1,085）	（930）	（-154）
環境システム事業	1,605	1,573	-31
ビル空調	538	549	11
産業空調	1,067	1,024	-42
（うち国内）	（632）	（634）	（2）
（うち海外）	（435）	（389）	（-45）
塗装システム事業	785	680	-104
（うち国内）	（135）	（139）	（4）
（うち海外）	（650）	（540）	（-109）

（環境システム事業）

・海外が想定を下回り、全体では下振れ。

（塗装システム事業）

・受注工事高が期初予想を下回ったことなどにより、全体では下振れ。



当頁は、同じく完成工事高を予想比でまとめています。

全社では、期初予想を136億円下回りました。

そのうち、環境システム事業は国内ではビル空調分野と産業空調分野とも想定を上回りましたが、海外が想定を下回り、全体では期初予想を31億円下回る1,573億円となりました。

一方、塗装システム事業は、受注工事高が期初予想を下回ったことなどにより、完成工事高は期初予想を104億円下回る680億円となりました。

1 2020年3月期決算ハイライト

3-①. 事業別利益（前期比）

単位：億円

	2019.3	2020.3	増減
営業利益	140	154	14
（同率）	6.2%	6.9%	0.6%
環境システム事業	131	135	3
（同率）	8.8%	8.6%	-0.2%
塗装システム事業	14	27	12
（同率）	2.0%	4.1%	2.1%
経常利益	150	159	9
（同率）	6.7%	7.1%	0.4%
環境システム事業	135	138	3
（同率）	9.1%	8.8%	-0.3%
塗装システム事業	16	28	11
（同率）	2.2%	4.1%	1.9%

（環境システム事業）

・国内市場の豊富な需要を取り込んだことによる完成工事高の増加に伴い増加。

（塗装システム事業）

・前期は第2四半期会計期間に北米のプロジェクトにおいて採算が悪化した影響があったが、その影響が解消し増加。

当頁は、事業別利益を前期比でまとめています。

経常利益は全社ベースでは9億円増加し159億円となりました。

そのうち、環境システム事業は、国内市場の豊富な需要を取り込んだことによる完成工事高の増加に伴い、3億円増の138億円となりました。

塗装システム事業は、前期は第2四半期会計期間に北米のプロジェクトにおいて採算が悪化した影響がありましたが、その影響が解消したため、11億円増の28億円となりました。

1 2020年3月期決算ハイライト

3-②. 事業別利益（予想比）

単位：億円

	期初予想	2020.3 実績	差異
営業利益	146	154	8
（同率）	6.1%	6.9%	0.7%
環境システム事業	134	135	1
（同率）	8.3%	8.6%	0.2%
塗装システム事業	21	27	6
（同率）	2.7%	4.1%	1.4%
経常利益	153	159	6
（同率）	6.4%	7.1%	0.7%
環境システム事業	137	138	1
（同率）	8.5%	8.8%	0.3%
塗装システム事業	21	28	7
（同率）	2.7%	4.1%	1.5%

・両事業とも完成工事高は期初予想を下回ったものの、収益性の向上により経常利益は期初予想を上振れ。

当頁は、同じく利益について予想比でまとめています。

経常利益については、全社では期初予想を6億円上回りました。

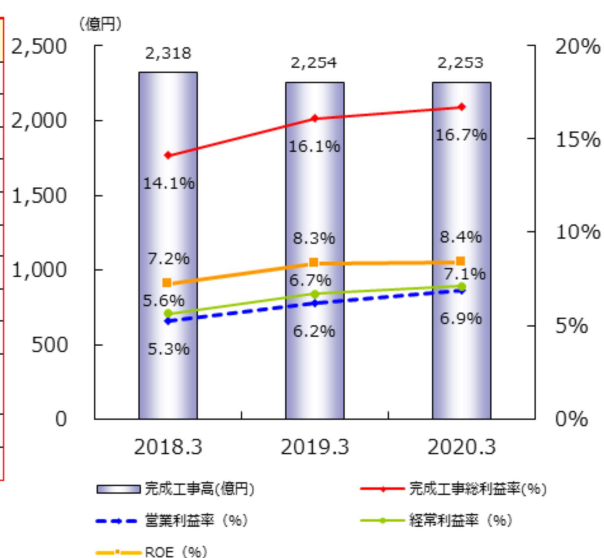
両事業とも完成工事高は期初予想を下回ったものの、収益性の向上により経常利益は期初予想を上回りました。

1 2020年3月期決算ハイライト

4. 損益計算書

単位：億円

	2018.3	2019.3	2020.3
完成工事高	2,318	2,254	2,253
完成工事総利益	327	362	376
(同率)	14.1%	16.1%	16.7%
販管費	205	222	222
(同率)	8.9%	9.9%	9.9%
営業利益	121	140	154
(同率)	5.3%	6.2%	6.9%
経常利益	130	150	159
(同率)	5.6%	6.7%	7.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	72	88	91
(同率)	3.1%	3.9%	4.1%
ROE	7.2%	8.3%	8.4%

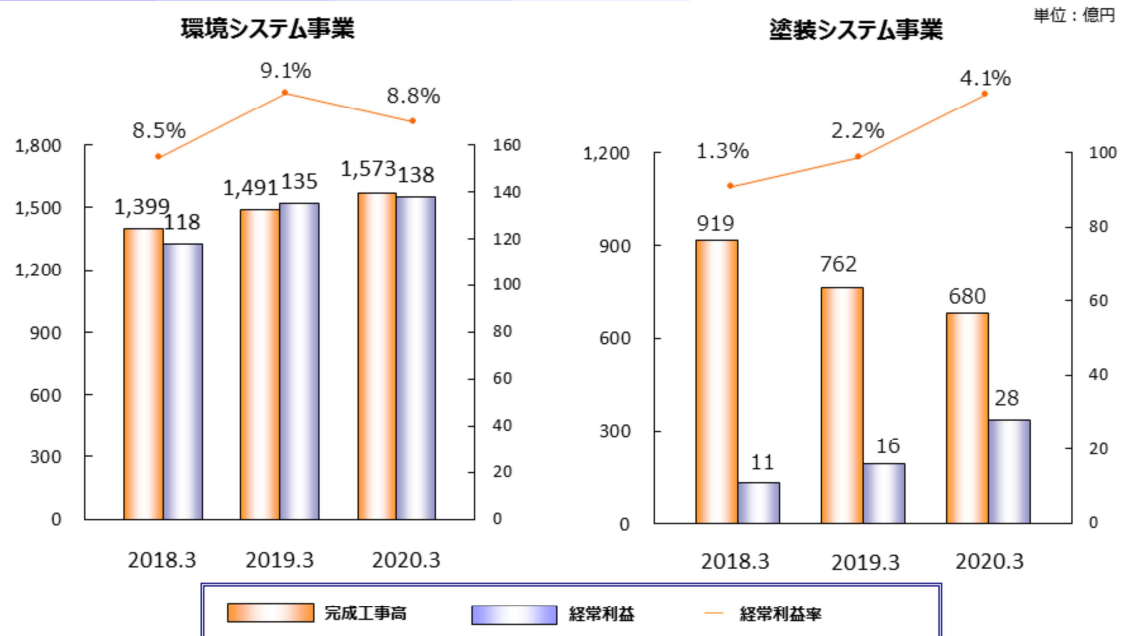


当頁は、3ヶ年の業績の推移を表しています。

ROEにつきましては、2019年3月期に引き続き8%を超える結果となりました。

1 2020年3月期決算ハイライト

5. 報告セグメントごとの完成工事高及び経常利益

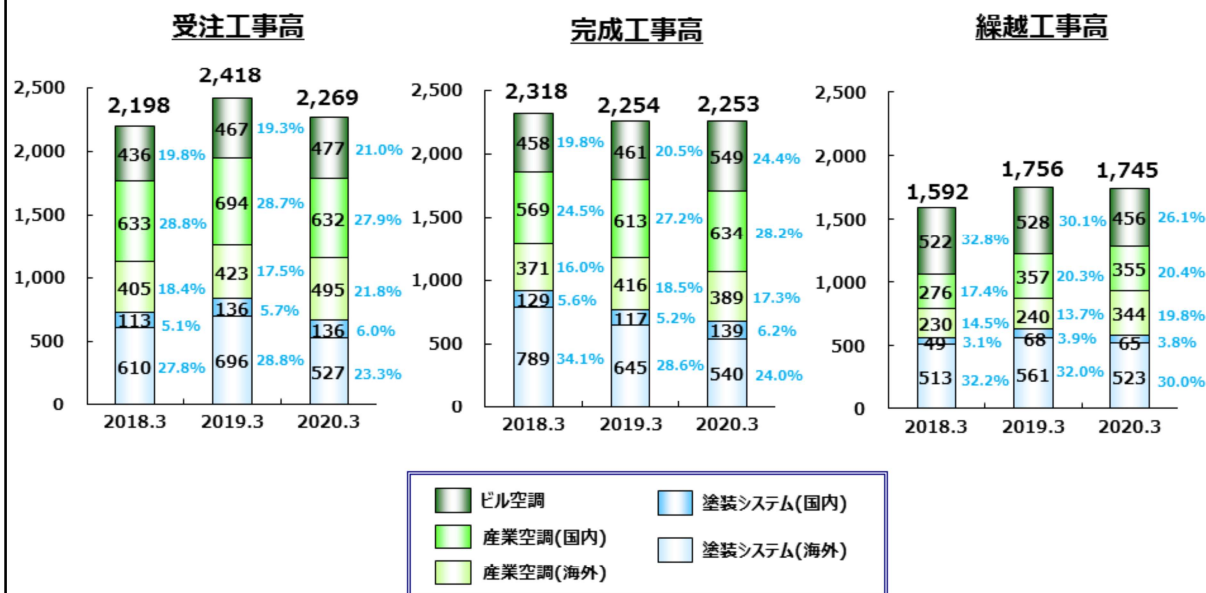


当頁は、先ほどご説明しました事業ごとの完成工事高、経常利益額の推移をグラフで示しています。

1 2020年3月期決算ハイライト

6. 受注工事高／完成工事高／繰越工事高

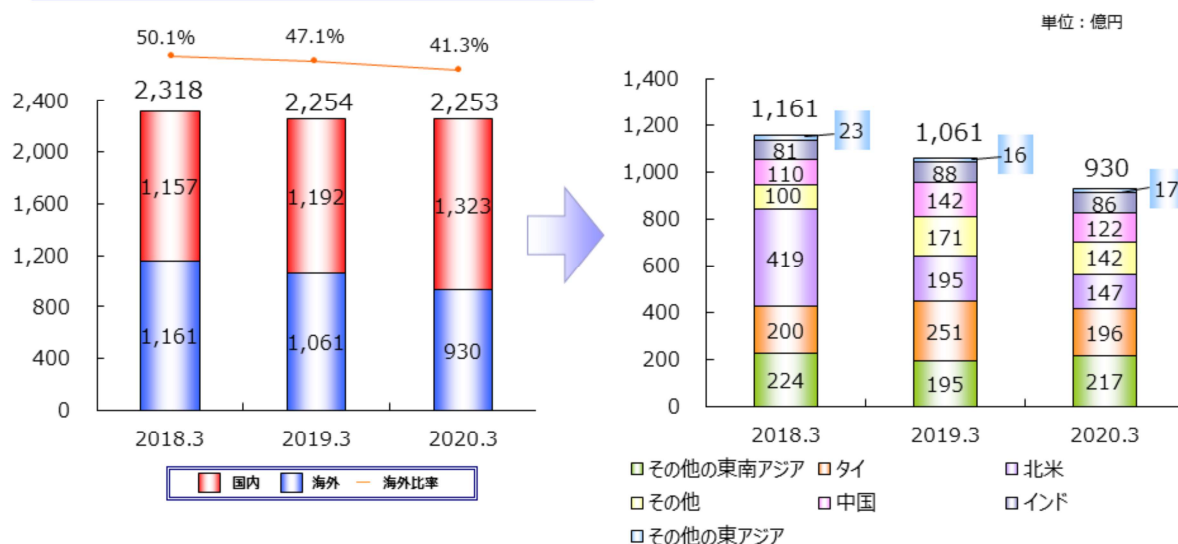
単位：億円



当頁は、受注工事高・完成工事高・繰越工事高の事業分野ごとの内訳と推移を示しております。

1 2020年3月期決算ハイライト

7. 海外完成工事高の推移(施工地別)



備考：当セグメントデータは、外部顧客への完成工事高のみの数値です。

●主な国または地域
 ・東南アジア - シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、他
 ・東アジア - 台湾、韓国
 ・北米 - アメリカ、カナダ、メキシコ
 ・その他地域 - ロシア、南米、他

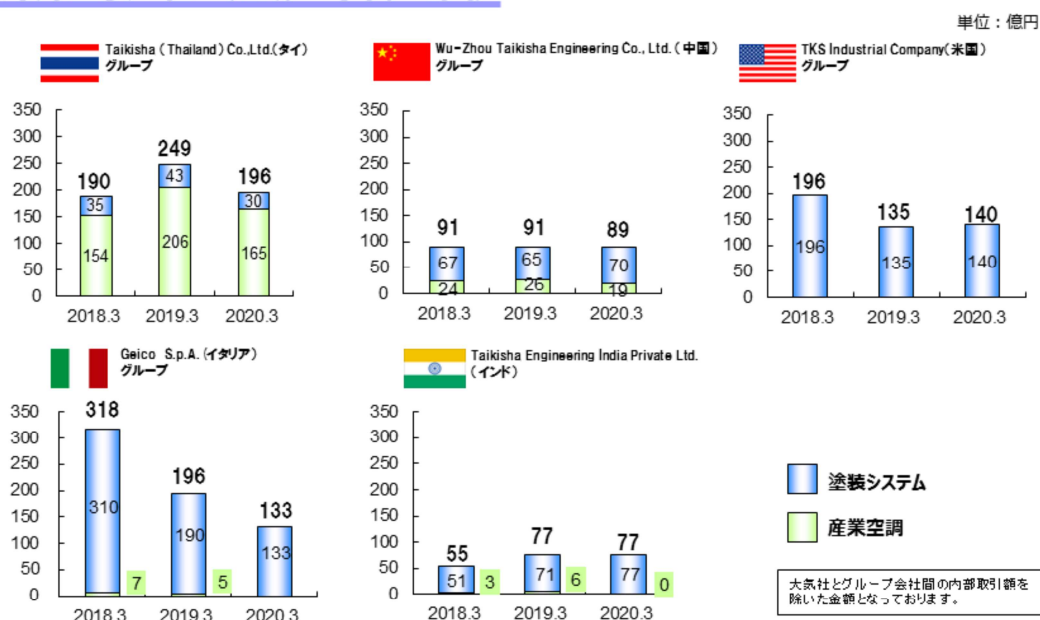
当頁は、海外の完成工事高の推移についてです。

左のグラフは国内海外の内訳と海外比率の推移を示しています。

今期の完成工事高は、国内ではビル空調分野、産業空調分野、塗装システム事業の全てにおいて増加した一方で、海外では産業空調、塗装システム事業とも減少したことから、オレンジ色の折れ線で示す海外比率は、前期の47.1%より5.8ポイント減少し、41.3%となりました。

1 2020年3月期決算ハイライト

8. 海外主要5社の完成工事高の推移



当頁は、海外主要5社の完成工事高の推移を示しております。

米国子会社とGeico社の2018年3月期は、それぞれ北米における自動車塗装の大型案件が寄与したため高い水準となっています。

1 2020年3月期決算ハイライト

9. 貸借対照表

単位：億円

科目	2019.3	2020.3	増減
流動資産	1,689	1,689	-0
現金預金	521	576	55
受取手形・完成工事未収入金	1,047	967	-79
有価証券	10	35	25
未成工事支出金及び材料貯蔵品	32	34	2
その他	83	79	-4
貸倒引当金	-4	-3	0
固定資産	541	464	-76
有形固定資産	103	104	1
のれん	13	7	-5
その他無形固定資産	33	28	-4
投資有価証券	293	243	-49
繰延税金資産	18	6	-11
その他	79	73	-5
貸倒引当金	-0	-0	-0
資産合計	2,230	2,153	-76

科目	2019.3	2020.3	増減
流動負債	987	939	-48
支払手形・工事未払金等	558	576	17
未成工事受入金	147	143	-4
工事損失引当金	4	2	-1
その他	277	216	-61
固定負債	106	86	-20
負債合計	1,094	1,025	-68
純資産	1,136	1,128	-8
資本金	64	64	0
資本剰余金	72	50	-21
利益剰余金	849	908	58
自己株式	-24	-25	-1
その他有価証券評価差額金	118	83	-34
繰延ハッジ損益	-0	-0	0
為替換算調整勘定	1	3	2
退職給付に係る調整累計額	5	-3	-8
非支配株主持分	48	46	-2
負債純資産合計	2,230	2,153	-76

・2020年3月期において、51%であったEncore社に対する持分を100%に引き上げた。
この持分の追加取得にともない、資本剰余金が減少。

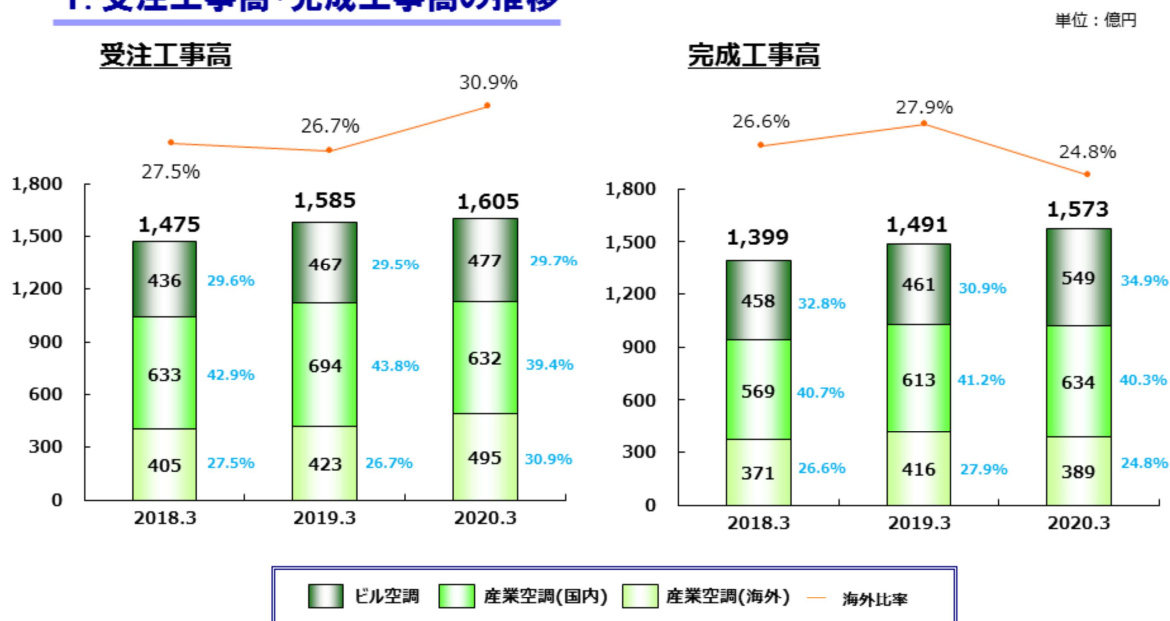
当頁は、連結の貸借対照表となります。

2020年3月期においては、これまで51%であったオンコア社に対する持分を100%に引き上げました。

この持分の追加取得にともない、資本剰余金が2019年3月末の72億円から50億円へと減少しております。

2 環境システム事業の業績

1. 受注工事高・完成工事高の推移



当頁からは、環境システム事業の業績についてご説明いたします。

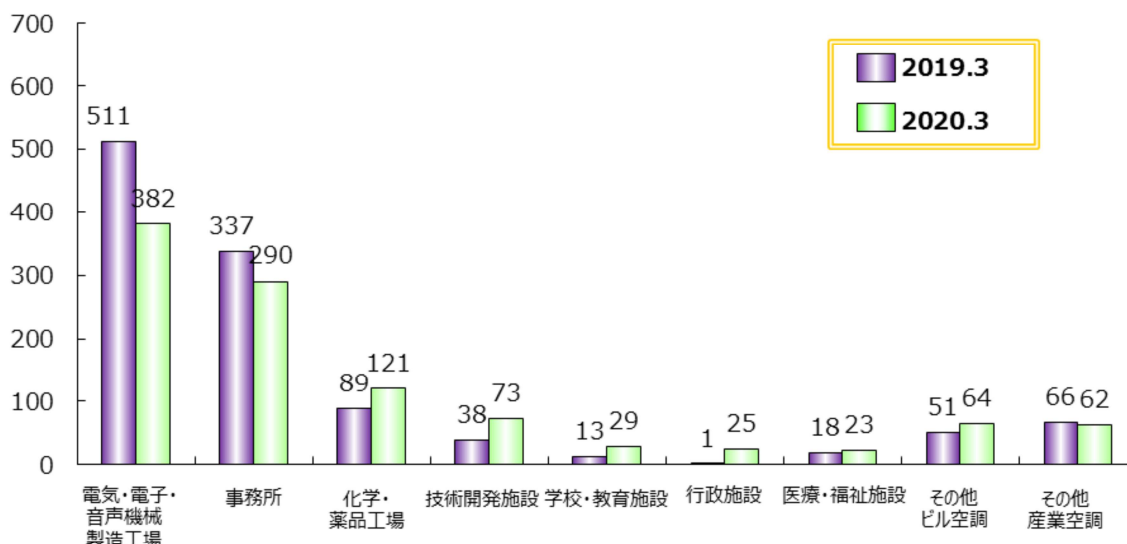
左のグラフは受注工事高、右のグラフは完成工事高について事業分野別に推移を示しております。

そのうち、完成工事高は国内の伸びが寄与し、右肩上がりで推移しております。

2 環境システム事業の業績

2. 市場種別受注状況(個別)

単位：億円



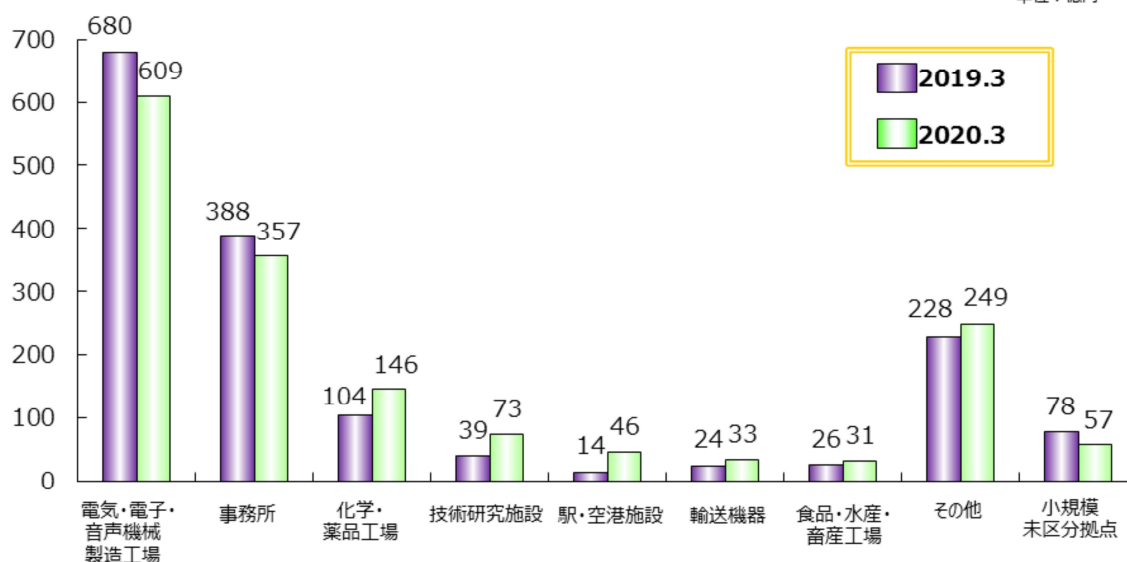
当頁は、「個別」の市場種別受注状況となります。

「電気・電子」分野は、前期は国内における大型案件の受注があったことによる反動減となりました。

2 環境システム事業の業績

3. 市場種別受注状況(連結)

単位：億円



当頁は、環境システム事業の「連結」の市場種別受注状況となります。

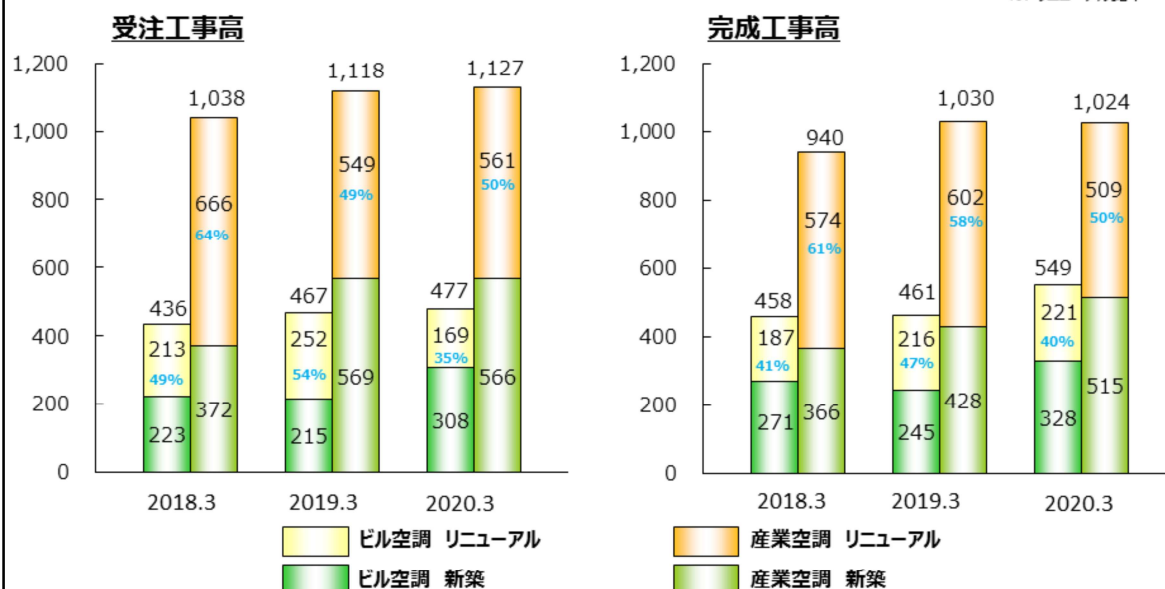
「電気・電子」分野は、今期は前期に比べ海外における受注が好調に推移しました。

2 環境システム事業の業績

4. リニューアル工事の推移(連結)

単位：億円

%：リニューアル比率

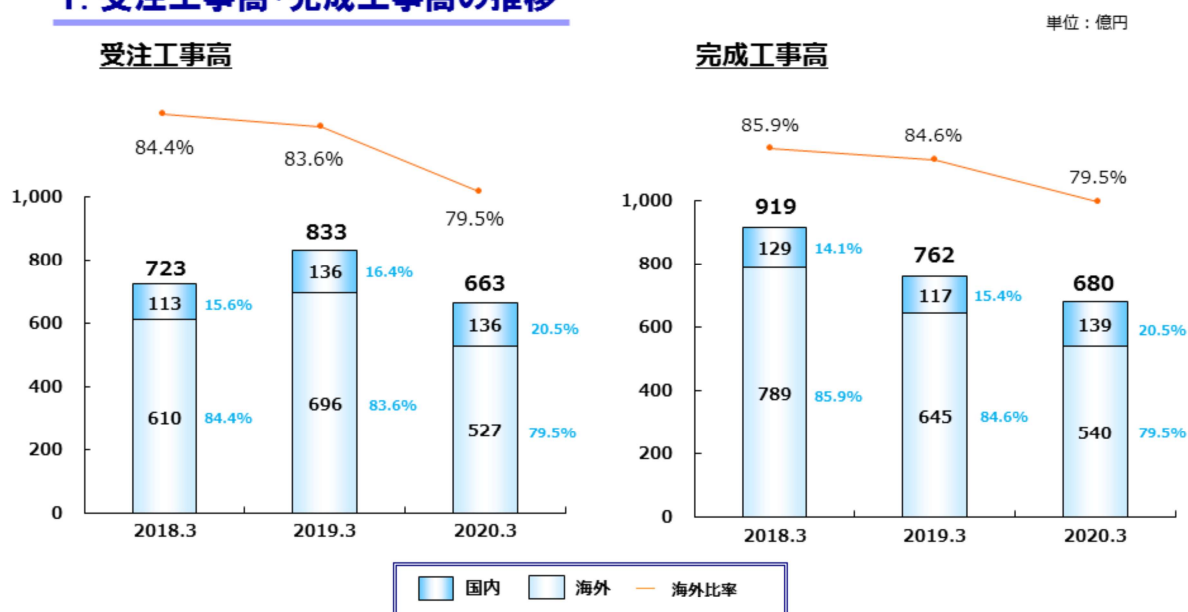


当頁は、リニューアル工事の推移です。

受注工事高については、ビル空調で前期はオフィスビルの大型再開発案件の受注があったため、今期はその反動減となりました。

3 塗装システム事業の業績

1. 受注工事高・完成工事高の推移



当頁からは、塗装システム事業についての説明となります。

受注工事高については、今期は北米などで増加したものの、前期に欧州で大型案件の受注があったことによる反動減となったことや、受注計画案件の期ズレなどにより海外で減少しました。

その結果海外比率は前期の83.6%から4.1%減少し79.5%となりました。

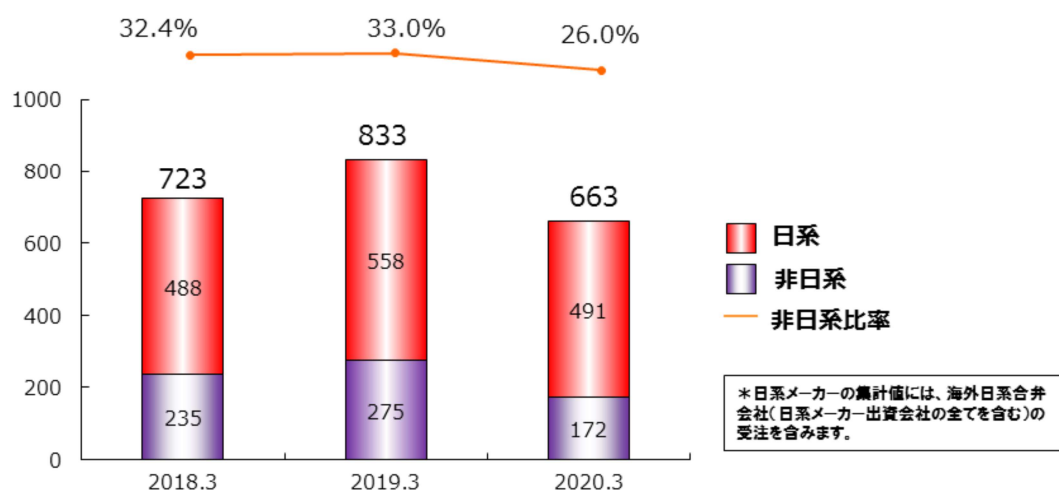
また、完成工事高については、2018年3月期は米国子会社と、Geico社の北米における自動車塗装の大型2案件が寄与し、高い水準でしたが、2019年3月期はその反動減となりました。

また、2020年3月期は前期に対して受注が減少したこともあり、完成工事高も減少しました。

3 塗装システム事業の業績

2. 非日系メーカー受注工事高比率

単位：億円



当頁は、非日系自動車メーカーからの受注工事高比率についてです。

2019年3月期は欧州で非日系顧客の大型案件の受注があったため
2020年3月期は反動減となり、非日系比率は前期比で7.0ポイント減
の26.0%となりました。

4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

1. 10億円以上の受注工事 全 37 件 (963億円)

10億円以上の件数（工事・市場種別）				
受注工事高 合計 37 件 (963億円)	国内 449 億円	19件	事務所	5件
			医療・福祉施設	1件
			行政施設	1件
			電気・電子	6件
			薬品	2件
			輸送機械	1件
			技術研究施設	1件
			自動車	2件
	海外 513 億円	18件	駅・空港施設	2件
			事務所	1件
			電気・電子	5件
			薬品	1件
			自動車	9件

当頁からは、計上金額が10億円以上となった、受注・売上・繰越案件についてまとめております。

4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

2. 10億円以上の**完成工事** 全 33 件 (801億円)

10億円以上の件数（工事・市場種別）				
完成工事高 合計 33 件 (801億円)	国内 517 億円	19件	事務所	9件
			医療・福祉施設	1件
			文化・娯楽・宗教等施設	1件
			学校・教育施設	1件
			電気・電子	5件
			自動車	1件
			自動車部品	1件
	海外 284 億円	14件	電気・電子	4件
			自動車	10件

4 主な受注工事・完成工事・繰越工事

3. 10億円以上の繰越工事 全 35 件 (960億円)

10億円以上の件数（工事・市場種別）				繰越工事	内 2020年度 完成予定
繰越工事高 合計 35 件 (960億円)	国内 444億円	20件	事務所	8件	1件
			医療・福祉施設	1件	-
			行政施設	1件	-
			電気・電子	5件	5件
			化学・薬品	2件	-
			技術研究施設	1件	-
			自動車	1件	-
			建設機械	1件	1件
	海外 516億円	15件	鉄道施設・空港	2件	-
			事務所	1件	-
			電気・電子	2件	-
			化学・薬品	1件	1件
			自動車	9件	3件

5 株主還元

自己株式の取得・消却

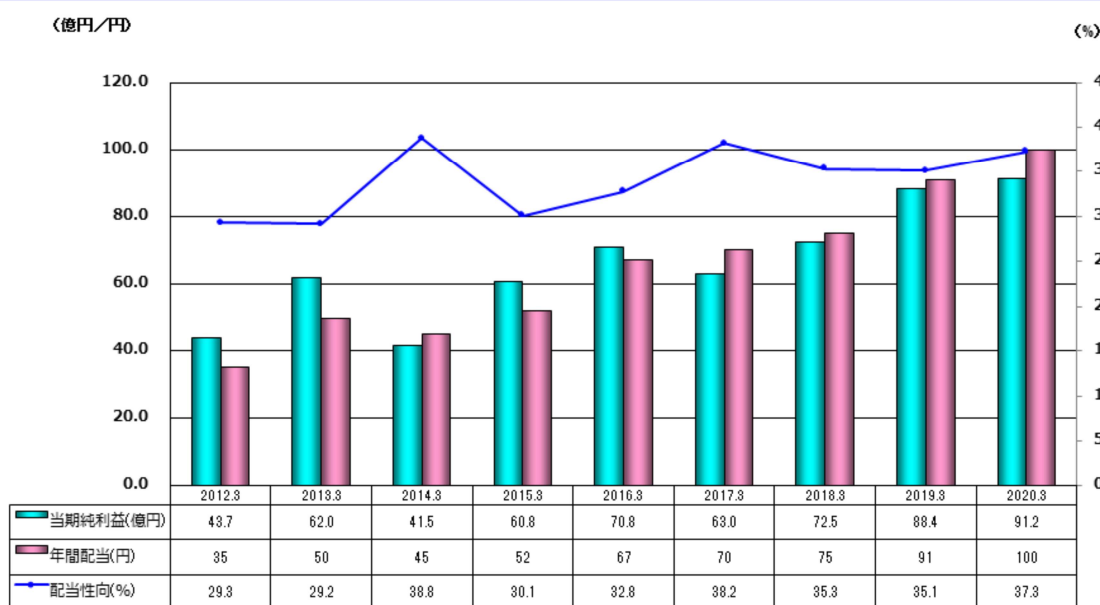
取得実績				消却実績			
実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)	実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2005年12月	40	1,933	77	2008年 8月	1,200	1,593	1,912
2006年 2月	597	1,780	1,062	2018年 2月	1,700	2,443	4,154
2006年7,8月	500	1,401	700				
2011年 8月	300	1,576	472				
2012年11月	600	1,614	968				
2013年12月	800	2,170	1,736	処分実績 (ESOPにて)			
2015年 5月	680	3,245	2,206	実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2016年11月	356	2,805	999	2013年 2月	180	1,860	334
2017年11,12月	136	3,654	499				

当頁では、自社株式の取得・消却についてご案内いたします。

基本方針としましては、資本効率の向上と機動的な財務政策の実現を目的として、自社株取得・消却を弾力的に実施していきます。

5 株主還元

当期純利益と配当の推移



・連結配当性向35%を目標とし、安定的な配当を実施する。

当頁においては、配当についてご案内いたします。

連結配当性向35%を目標とし、これまで通り安定的な配当を実施することを基本方針といたします。

2020年3月期につきましては、親会社株主に帰属する当期純利益は期初予想を下回りましたが、配当につきましては期初予想通り1株当たり100円での実施としました。その結果、配当性向につきましては37.3%となりました。

なお、2021年3月期の年間配当につきましては、現時点では業績予想とともに未定とさせていただきます。

 大気社

2. 中期経営計画（2019年度～21年度）の 各戦略における取り組み

31Copyright 2020 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

続きまして当頁からは、中期経営計画の各戦略における取り組みにつきましてご案内させていただきます。

長期ビジョン／数値目標／投資テーマ

「特色あるエンジニアリングを通じ、
最適な環境を創造するグローバルな企業グループを目指す」

技術

エネルギー・空気・水に関わる技術で、
お客様の多様なニーズを満たすエンジニアリング集団を目指す。

環境

先進的なソリューション技術でお客様の環境課題を解決し、
豊かな地球環境を未来へ引き継ぐことに貢献する。

人材

個人の創造性・多様性を尊重し、社員が自己の成長と働く喜びを感じることができる
風土を大切にする。

2022年3月期 数値目標

受注工事高	2,650 億円
完成工事高	2,600 億円
経常利益	160 億円
親会社株主に帰属する当期純利益	100 億円
自己資本利益率 (ROE)	8 %以上
投資計画	200 億円

投資テーマ

投資金額（計画）

技術開発力・提案力の強化／新規事業への取り組み推進
（研究開発施設の拡充など）

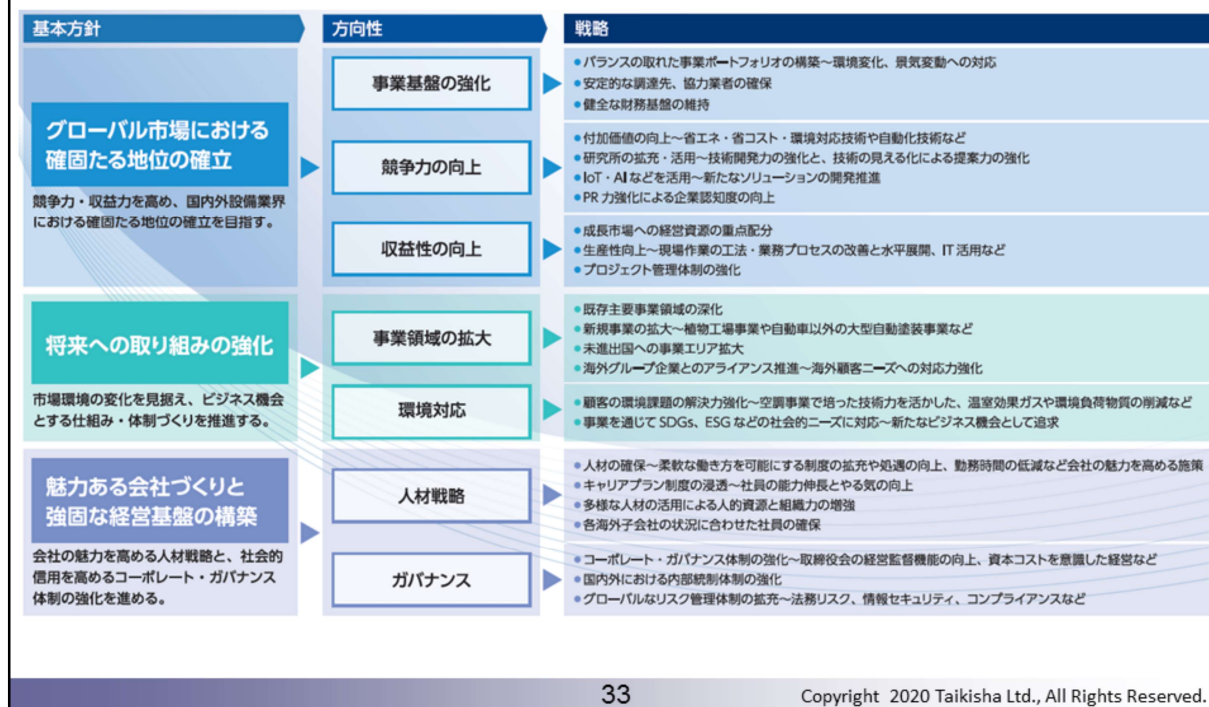
生産性の向上（ITの活用など）・人材開発

M & Aなど資本投資

200億円

当頁は、本中計の『長期ビジョン／数値目標／投資テーマ』について
記載しております。

基本方針と方向性・戦略



続いて『基本方針と方向性・戦略』について記載しております。

各戦略における取り組み ～今期の実績①～

戦略：海外グループ企業とのアライアンス推進～海外顧客ニーズへの対応力強化

Encore社への100%出資

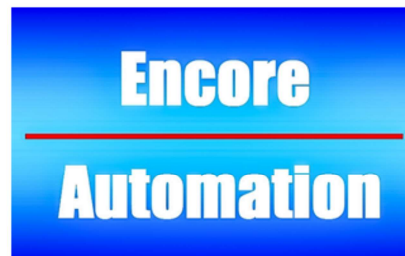
当社はこの度Encore Automation LLC社への出資比率を100%へ引き上げました。

Encore社との業務・資本提携は2014年6月の51%出資からスタートしました。

同社は大気社の塗装システム事業部のオートメーション事業所と同じロボットアプリケーションシステムのエンジニアリング会社であり、米国の自動車メーカー、航空機メーカーに対する豊富な実績があります。

これまでも同社との協業により、北米市場において、塗装システムのロボットアプリケーション事業の拡大、アフターサービス体制の拡充を進めてきました。

今後当社はEncore社と航空機塗装向け自動化システムなどの技術をさらに深化させ、グローバルに展開してまいります。



当頁からは中計の各戦略における取り組みのうち、2020年3月期の実績についてご案内いたします。

まず、『海外グループ企業とのアライアンス推進』における実績として、オンコア社への出資比率を100%に引き上げたことについてご報告させていただきます。

同社との業務・資本提携は2014年6月の51%出資からスタートしました。

これまでも同社との協業により、北米市場において、塗装システムのロボットアプリケーション事業の拡大、アフターサービス体制の拡充を進めてきました。

今後当社はEncore社と航空機塗装向け自動化システムなどの技術をさらに深化させ、グローバルに展開してまいります。

各戦略における取り組み ～今期の実績②～

戦略：未進出国への事業エリア拡大

新たな連結子会社 大気社ラオス設立

2019年12月、当社はラオスに新たな連結子会社を設立しました。

事業内容としては建設設備全般の設計、施工、維持管理、保守などを手掛けます。

大気社グループはタイ、中国、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、マレーシア、シンガポールなどの周辺諸国に連結子会社を有していることから、ラオスにおける事業活動への十分なサポート体制が整っています。



次に、中計の戦略『未進出国への事業エリア拡充』における実績として、新たな連結子会社として、大気社ラオスを設立したことをご報告させていただきます。

事業内容としては、建設設備全般の設計、施工、維持管理、保守などを手掛けます。

大気社グループはタイ、中国、ミャンマー、カンボジア、ベトナム、マレーシア、シンガポールなどの周辺諸国に連結子会社を有していることから、ラオスにおける事業活動への十分なサポート体制が整っています。

各戦略における取り組み ～今期の実績③～

戦略	今期の実績
生産性向上	CADにおける作図診断機能の開発 当社品質基準に則った作図診断機能を開発。 図面作成の際、基準を満たさないとアラートが出ることにより、作図品質の確保と図面の不備に起因する施工の手戻りによるロス時間・コストの削減効果が期待される。 （2020年4月より運用開始）
人材の確保 ～柔軟な働き方を可能にする制度の拡充や処遇の向上、勤務時間の低減など会社の魅力を高める施策	テレワーク制度の策定 働き方改革に向けた取り組みとして、様々な就業機会を提供し、社員のワークライフバランスの向上や離職防止、優秀な社員の確保等を図るべく制度策定。 （2020年4月より運用開始）

続いての実績は、戦略「生産性の向上」に関しまして、CADにおける作図診断機能の開発を行いました。

図面作成の際、基準を満たさないとアラートが出ることにより、作図品質の確保と図面の不備に起因する施工の手戻りによるロス時間・コストの削減効果が期待されます。

また、戦略「人材の確保」の取り組みとして、テレワーク制度の策定を行いました。

働き方改革に向けた取り組みとして、様々な就業機会を提供し、社員のワークライフバランスの向上や離職防止、優秀な社員の確保等を図るべく制度を策定しました。

なお、いずれも2020年4月より運用を開始しています。

各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み①～

戦略	進行中の主な取り組み
付加価値の向上 ～省エネ・省コスト・ 環境対応技術や自動化技術など	高塗着効率塗装システムの開発・商品化 CO ₂ 削減につながる、高塗着効率塗装システムの開発・商品化を推進中。
研究所の拡充・活用 ～技術開発力の強化と技術の見える化による提案力の強化	技術開発センター（愛川）の実証センター化 環境システム事業関連技術の顧客への提案を行う見学施設として再構築を検討中。
IoT・AIなどを活用 ～新たなソリューションの開発推進	予兆保全と品質解析システムの開発・事業化 IoT・AI を活用して稼働停止や品質不良発生時の要因解析を行うシステム「i-Navistar」の導入拡大に向け営業活動推進中。

当頁からは、各戦略における進行中の主な取り組みについて記載しております。

各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み②～

戦略	進行中の主な取り組み
生産性向上	図面作画・積算業務の自動化システムの開発 図面の自動作画や自動積算のシステムを開発中。
新規事業の拡大 ～植物工場事業や自動車以外の 大型自動塗装事業など	植物工場自社工場建設 植物工場の量産・自動化技術の確立と実証、そして顧客への提案を行う施設の設立を検討中。 航空機・鉄道車両向け自動研磨装置の開発・事業化 初プロジェクトの受注に向けた営業・技術実証活動を推進中。
未進出国への 事業エリア拡大	未進出国への拠点設立の検討 今後の投資が期待できる地域への新規拠点設立を検討中。

各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み③～

戦略	進行中の主な取り組み
人材の確保 ～柔軟な働き方を可能にする制度の拡充や処遇の向上、勤務時間の低減など会社の魅力を高める施策	介護や育児に関わる休暇制度の見直し
	休暇期間の延長や必要な時に必要な休暇が取得できるような仕組みづくりを検討中。
多様な人材の活用による人的資源と組織力の増強	同一労働同一賃金を求める法改正への対応
	改正法の主旨に基づき、非正規社員と正規社員間の処遇差異の見直しを実施。引き続き、処遇改善に向けた取り組みを継続中。
	多様な人材の採用と活用
	女性活躍を推進すべく、ライフイベントに応じた柔軟な休暇・休職の取得や復職後の職務訓練指導を実施。また、政府が推進する70歳雇用への対応について検討中。

各戦略における取り組み ～進行中の主な取り組み④～

戦略	進行中の主な取り組み
コーポレート・ガバナンス体制の強化 ～取締役会の経営監督機能の向上、資本コストを意識した経営など	資本コストや資本・配当政策に関する検討の深化 企業価値向上を目指し、資本コストを意識した経営や資本・配当政策に関する検討を推進中。
国内外における内部統制体制の強化	ITに関わる内部統制体制の強化 グループ全体のITを健全に維持・監督する内部統制体制の強化に向けた対応を検討中。
グローバルなリスク管理体制の拡充 ～法務リスク、情報セキュリティ、コンプライアンスなど	グローバルな情報セキュリティ対策の強化 海外子会社における情報セキュリティ対策の強化を検討中。

今後も、半期毎の決算説明資料におきまして、進捗のご報告をさせていただきます。

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社大気社 管理本部 企画・広報課

TEL : 03-5338-5052 FAX : 03-5338-5195